

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-269548

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)11月24日

H 04 M 11/00
G 06 F 3/16
H 04 M 9/02

3 0 2

8020-5K
7341-5B
8426-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 パソコンボイスメールシステム

⑯ 特 願 昭61-114015

⑰ 出 願 昭61(1986)5月19日

⑱ 発 明 者 佐 藤 了 一 郎 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャノン株式会社内
 ⑲ 出 願 人 キャノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 ⑳ 代 理 人 弁理士 丸 島 儀 一

明 細 書

1. 発明の名称

パソコンボイスメールシステム

2. 特許請求の範囲

データ処理のためのパーソナルコンピュータ、
 音声入出力のための電話機、音声をデジタル和
 互変換する変換手段を有してLAN対応のワーク
 ステーションを構成することを特徴とするパソ
 コンボイスメールシステム。

3. 発明の詳細な説明

本発明はLANの端末としてのパーソナルコ
 ンピュータに関する。

従来、LANにおけるメッセージのやりとりは
 文字でのやりとりに限定されていた。

本発明は、従来の文字だけのやりとりに限定さ
 れていた欠点を除去し、音声によるメッセージ交
 換を可能にするものである。

更に音声メッセージをデジタル化蓄積し所望に応じ
 てパソコンデータと切替伝送するものである。

更にパソコンデータを蓄積する記憶手段にデー

タと音声メッセージとを格納し効率の良い管理を
 するものである。

更に音声データを認識して文型データとし、パ
 ソコンデータの画面表示器にて切替表示せしめる
 ものである。

更にパソコンデータと音声による文型データと
 を一画面中に合成して表示せしめるものである。

更にその合成データを1ページの文型データと
 して構成し、ページ伝送又はページプリントせし
 めるものである。

第1図は本発明を採用したパソコンボイスメー
 ルシステムの外観図である。第2図は本システ
 ムの装置構成を示す模式図であり、第3図は本シ
 ステムのフローチャートである。第2図、第3図を
 参照して本システムにおける動作につき詳細に
 説明する。第3図のフローチャートはCPU、
 ROM他処理部に関するプログラム手順であ
 る。

第3図のステップS1において第2図の符号2
 で示される電話機より伝えたメッセージを音声

により入力する。次のステップ S 2 において、入力する音声データをデジタル変換し、第 2 図の符号 11 で示される目ステーションの外部記憶装置にファイリングする。次にステップ S 3 において、ファイリング後、第 2 図の符号 14 で示される同一 LAN 内の相手のステーションへメツセージのあることを伝える。次にステップ S 4 において、相手から送付しても良いという信号が来るまで待ち合せ処理をする。次にステップ S 5 においてステップ S 2 でファイリングした音声のメツセージデータを相手へ送付する。次のステップ S 6 では受けたメツセージデータを第 2 図の符号 7 で示される RAM へ一時貯蔵し、順次第 2 図の符号 1 で示されるコンピュータによりデジタル・アナログ変換を行いながら次のステップ S 7 においてアナログ化した音声のメツセージを第 2 図の符号 2 で示される電話機より情報を開き出すことができる。

尚、記憶装置 11 として、フロッピーディスク、ハードディスク等の不揮発のものがあるが、

し合成せしめる。

この RAM の合成データは CRT のビデオ RAM に転送され、1 ページ画面に表示される (S 13)。これは別途の送付指令により 1 ページ伝送される。又ページプリントされる。尚ページ伝送、ページプリントとは 1 ページの間、データの流れが停止することなく伝送、プリントされるもので、例えば A 4 1 ページのシートに合成データがプリント再生される。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明によるパソコンによるボイスメールシステムの外観図、

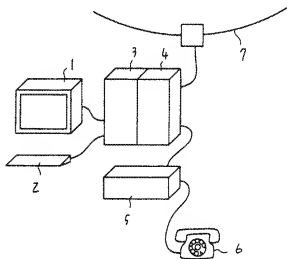
第 2 図は本システムの要部構成を示す模式図、

第 3 図は本システムにおける動作のフローチャートである。

この記憶装置は本米 CPU 5 によるパソコンデータ処理によるデータ中、キーボードにより入力したデータに基づく文書データを格納するものである。従ってこの同じハードディスクに、音声データデータを格納する場合と上記文書データを格納する場合とで異なる識別コードを形成し、ディスクの管理領域に各々格納する。この識別コードは、データ種別とディスク中の各々に対応するアドレスデータである。この見出しデータの入力により所望のデータを選択してプリント又は伝送する。

即ち S 8 にて文書読出指令の入力があったかを判定し、入力時ディスク 11 から文書データのみを読出して伝送する (S 9)。又、変換指令があると (S 10)、ディスク中の音声データを文書データに変換する (S 11)。これは同様の音声認識による。次にパソコンによる文書データとの合成指令があると (S 12)、パソコンによる文書データ D₁ と音声認識によるデータ D₂ とを順次ディスクから読出して RAM の所望領域に展開

第 1 図

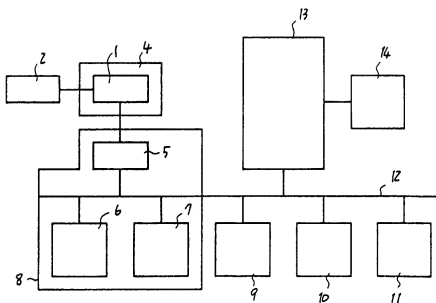


出願人 キヤノン株式会社

代理人 丸 島 儀



第 2 図



第 3 図

